

「音がなくても」

Alicja Dubiel

ニコラウス・コペルニクス大学日本学科 3年生

皆さん、音のない世界で生活するなんて想像できますか？風がそよそよとか、雨がザーザーとか、鳥がちゅんちゅんとか、毎日耳にする音は、私たちの生活に彩りを与えてくれます。でも、今日は、音がない人生を送っている人たちの困難についてお話ししたいと思います。

ろう者と呼ばれる人たちは、手話だけでなく、身振りや顔の表情で感情や言いたいことを相手に伝えています。小学校の時、私のクラスメートの男の子がそうでした。彼は、先生が話しているテーマや質問がよく理解できず、大変そうでした。私は悲しくてしょうがなく、友達と一緒に彼のために毎日授業のメモをとることにしました。彼と意志疎通がしやすくなるように、会話を書き留めるノートを作りました。この方法を彼はとても喜んでくれました。趣味のことや好きなことをあれこれ書くうちに少しずつお互いのことがわかるようになってきました。彼はスポーツが好きでしたから、休み時間に一緒によく外でサッカーやいろいろなゲームをしました。それまでは、彼がこれほど明るくてやさしい心の持ち主だとは知りませんでした。

私は最近、彼のことを思い出して、4ヶ月ほど前に手話の勉強を始めました。興味があって日本の手話も少しやっています。手話教室で先生から教わったことですが、ろう者は、実は、普通に耳が聞こえる人とコンタクトを求めています。しかし、コミュニケーション障壁のため、理解してもらえないのではないかと恐れて、殻に閉じこもりがちです。今思い返せば、小学校の友だちもそうでした。

でも、ろう者は耳が聞こえない分、とても豊かな感性を持っています。手話でろう者と会話をするようになって、私にはそんな印象が残りました。普通の我々が気付かないようなことも手話で表しています。たとえば、日本の手話で「こんにちは」は、二人がおじきして、敬礼するように指を動かします。これは素晴らしいと思います。手話の仕草から、尊敬し合うことの大切さを教えられます。

残念なことに、ポーランドの学校では手話の授業がありません。だから、ろう者を教室に招いて交換授業をするのがいいと思います。私もまだ初心者ですが、将来は、風や雨の音でも、鳥の鳴き声でも、自由に表現できるようになりたいと思います。

さあ、皆さん。皆さんも、いっしょに手話を始めてみませんか。きっと世界が今までとは違うように感じられるかもしれませんよ。

最後に、ポーランド手話と日本手話で「ご清聴ありがとうございました」と伝えたいです。